

TCFDに関する取組み状況

TCFD | TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES



を

超えた挑戦。

【TCFDに関する取り組み状況】 2023.6.26

ガリレイグループは、「持続可能な開発目標（SDGs）」の趣旨に賛同し、2019年11月に「ガリレイグループSDGs宣言」として「生活者の食生活品質の向上を」、「地球環境にもっとやさしく」の二つの目標に取り組んでいくことを宣言しております。また、「食といのちの未来を拓く」をパーパス（存在意義）として掲げております。重要課題の中でも事業の継続性への影響度の高さ及びパーパスに掲げる地球の「いのち」を守る観点から、「気候変動対応」を最重要課題として特定し、2021年6月にサステイナブルビジョン「Dramatic Future2050」を掲げております。

ガリレイグループサステイナブルビジョン『Dramatic Future 2050』

<https://www.galilei.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/10/64b9ab2bbcad1af0fb71d874960209dd.pdf>

ガリレイグループは「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」に賛同し、気候変動が事業にもたらす影響を分析し、TCFDの提言に基づき、取り組みを開示いたします。

① ガバナンス

当グループ全体でサステイナブルビジョンに沿った運営を行うため、2021年6月にグループ横断のSDGs推進委員会を設置しております。委員長である代表取締役 社長執行役員のもと、気候変動対応を含む環境目標を決定しております。中長期計画については、SDGs推進委員会が策定したものを、取締役会にて決議しております。目標の進捗については、四半期に一度、委員会を開催し、全社の進捗状況を確認し、レビューを行い、重要な事項については、都度取締役会に報告しております。

② 戦略

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、2050年までの「カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に向け「環境ビジョン2050」を掲げ、それを実現するための具体的なアクションとして「環境アクション2030」を策定し、環境先進企業として、ステークホルダーからの期待、社会に対して責任を果たしてまいります。気候変動により平均気温が4°C上昇することは、社会に非常に大きな影響を及ぼします。世界全体で気温上昇を1.5°Cに抑えることが目標とされており、その目標達成に貢献することが重要であると認識しています。当グループは1.5°C、4°Cシナリオでシナリオ分析を実施しています。シナリオ分析で特定したリスク・機会の概要は、下表を参照ください。

(気候変動領域における主なリスク・機会)

リスク 機会	種類	リスク・機会の概要	財務影響		対処
			1.5°C	4°C	
リスク	移行 リスク	冷媒規制の強化と対応コストの増加（製品・拠点）	大	小	・環境アクション2030「グリーン冷媒への転換」、「冷媒ガス漏洩防止」推進 ・新冷媒取り扱いのための設備投資、技術習得のための研究開発、教育訓練
		省エネルギー規制の強化と対応コストの増加（製品・拠点）	中	小	・環境アクション2030「環境性能の高い製品を開発・提供」推進
		炭素税の導入によるコストの増加	中	小	・環境アクション2030「CO2排出量削減」推進
		原材料価格・調達コストの増加	大	中	・ガリレイサプライヤーハブ、ガリレイコントラクターハブ発足。サプライチェーンと協働した対策の強化、売価への転嫁
	物理 リスク	自然災害の甚大化などの異常気象の深刻化による操業影響	中	大	・BCPの策定、高リスク事業拠点の代替策計画
		サプライチェーンの寸断による調達遅延	中	大	・複数購買、部品の共通化、在庫水準の引き上げ
機会	製品・ サービス	環境対応製品の需要増（グリーン冷媒・省エネ製品）	大	中	・環境アクション2030「グリーン冷媒への転換」、「環境性能の高い製品を開発・提供」推進
		断熱パネルの非冷空間への用途拡大	大	中	・非冷空間へのパネル化の推進 ・高断熱住宅等への技術応用の推進
		Zero Call Company推進による顧客信頼獲得	中	中	・環境アクション2030「冷媒ガス漏洩防止」推進
		コールドチェーンの拡大による冷凍設備・パネルの需要増	中	大	・食の上流へのグループシナジーの拡大 ・生産性、施工性の向上推進
	エネルギー源	再生可能エネルギーの低コスト化	中	小	・再生可能エネルギーの有効活用

③ リスク管理

取締役会決議に基づき、リスク管理委員会を設置し、気候変動関連のリスクを含む全社リスクを、発生頻度と影響度により重要性を評価し、リスク管理を行っております。

す。リスク管理委員会は、年に一度、活動内容を取締役に報告いたします。気候変動関連のリスクについては、ISO14001のPDCAサイクルに沿って管理しております。環境保全活動の継続的な改善を実現する仕組みとして、全グループの事業所においてISO14001に準じたグループ共通のマネジメントプログラムを構築しております。

④ 指標と目標

「環境アクション2030」のアクションごとに指標と目標を設定しています。上記のガバナンスにおいて各指標の進捗状況がモニタリングされております。

重点取り組みテーマの中長期目標

重点取り組みテーマ	指標	中長期目標		実績値及び実施状況	
		目標	目標年	2021年度	2022年度
グリーン冷媒への転換					
冷凍機内蔵製品	加重平均GWP(単位：GWP)	500以下	2025	1,908	1,829
冷凍機別置製品及び工事	加重平均GWP(単位：GWP)	1500以下	2025	1,720	1,670
お客様製品・設備	フロン冷媒が封入されている環境負荷の高い製品の切替を推進	-	毎年	-	-
冷媒ガス漏洩防止					
冷媒漏洩量	10年以内の製品・施工物件の冷媒漏洩量(単位：t-CO2)	0	2035	55,102	63,503
冷凍機内蔵製品	フロン冷媒漏れ10年保証	開始	2025	-	-
冷凍機別置製品及び工事	保守契約によるフロン冷媒漏れ10年保証	開始	2025	-	-
環境性能の高い製品を開発・提供					
LCA評価実施	主要機種のLCA評価を実施	公表	2023	-	実施
環境配慮製品へ移行	LCA評価より環境負荷の少ない製品へ移行	-	毎年	-	ヨコ型 一定速廃止
CO2排出量削減					
脱炭素	Scope1・2 CO2排出量(絶対量)(単位：t-CO2)削減率(基準年：2013年)	(6,930) 50%	2030	(11,263) 19%	(9,568) 31%
	お客様との協働によるCO2排出削減貢献	-	毎年	-	-

<中長期CO₂排出量削減目標>

2030年目標 Scope1・2 50%削減

2050年目標 Scope1・2 ネット・ゼロ

また、詳細な情報につきましては、2023年10月に発行する予定の統合報告書および当社ホームページにて開示いたします。

以上